

2026年6月期 第3四半期

決算補足説明資料

2026年5月14日

株式会社オカムラ食品工業 (2938)



- I. 2026年6月期 第3四半期実績**
- II. 「中期経営目標2030」の進捗状況**
- III. 2026年6月期 通期計画**
- IV. 参考資料**

I . 2026年6月期 第3四半期実績



■ 第3四半期実績ハイライト

- ・ 第3四半期実績サマリー
- ・ 成長のためのKPI
- ・ 連結業績サマリー

■ セグメント別の増減・要因分析

- ・ セグメント情報サマリー
- ・ セグメント別売上高増減
- ・ セグメント別営業利益増減
- ・ 要因別セグメント利益増減（養殖事業）
- ・ 要因別セグメント利益増減（国内加工事業）
- ・ 要因別セグメント利益増減（海外加工事業）
- ・ 要因別セグメント利益増減（海外卸売事業）

■ 財務の要点（BS）

- ・ 貸借対照表 増減サマリー

Q3実績サマリー

成長のためのKPI

国内養殖量

2026年水揚げ計画4,300ト>(前年比824ト>増)

- 2026年4月～7月の水揚げ期間の半分が終了したが、最終的に計画を下回り終了する可能性あり。
 <次期(FY2026 通期)報告では確定値を報告予定>

海外卸売事業売上高

Q3累計売上**110億円** (予算進捗率84.9%)

- 通期売上計画は129億円。
 現時点においては、計画を上回る進捗で推移。

第3四半期累計業績

連結売上高

前年同期比 **+33.9億円**

- 連結売上高は前年同期比+33.9億円/+13.4%の287.2億円
- すべてのセグメントで増収。特に、国内加工事業では主力製品いくらか製品が想定を上回る販売単価で推移、海外卸売事業は従来の売上増加傾向が継続し、ともに+27%と大きく伸長

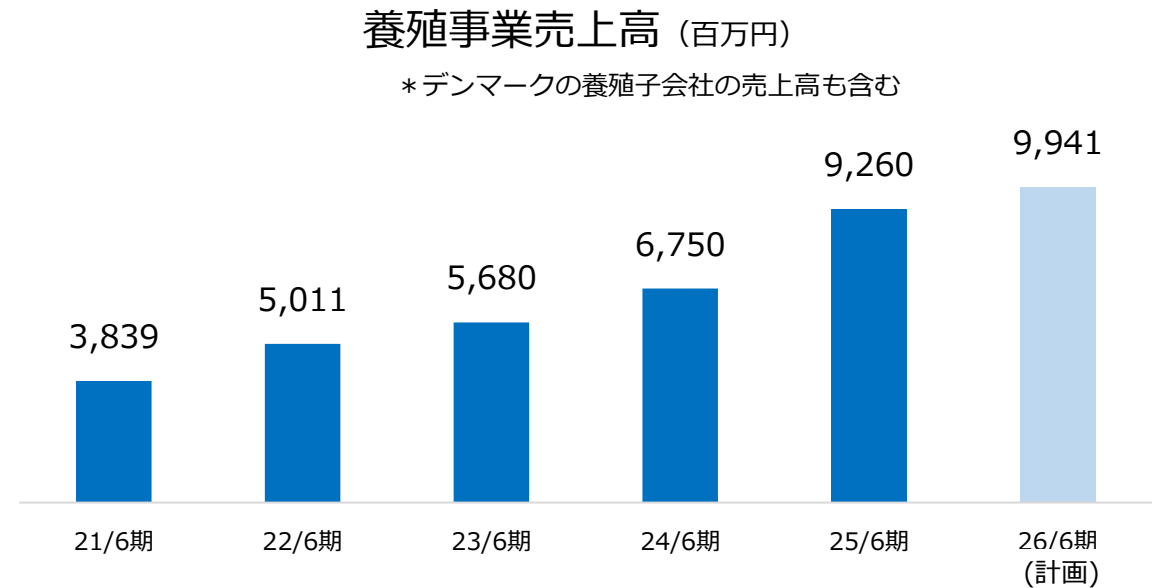
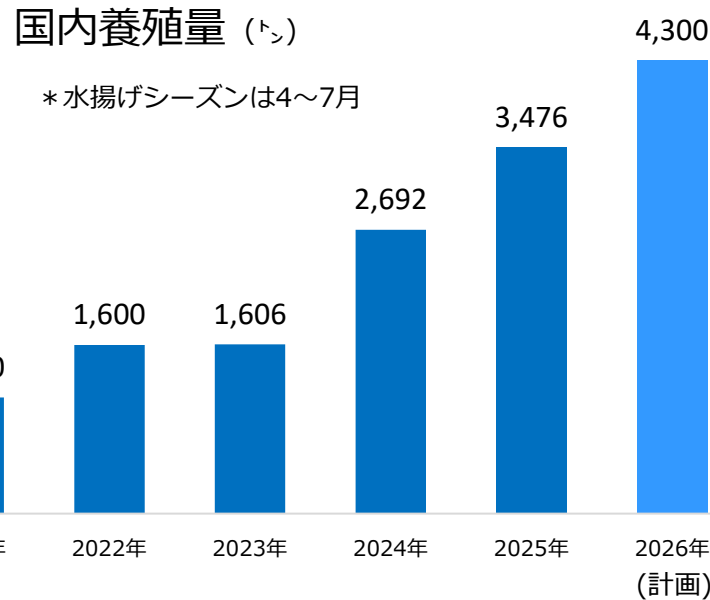
連結営業利益

前年同期比 **+6.1億円**

- 連結営業利益は前年同期比+6.1億円/+27.7%の28.5億円
- 事業拡大に向けた人員増による人件費の増加、製品在庫増加に伴う保管料増加などの販売管理費増を、売上増加に伴う利益増で吸収し増益

成長のためのKPI (1) 国内養殖量の拡大

当社グループの成長ドライバーの一つ国内養殖量の拡大だが、2026年シーズン(2026年4~7月水揚げ)の国内養殖量は4,300トという計画を下回り終了する可能性あり。<次期(FY2026 通期)報告では確定値を報告予定>



中間養殖
キャパシティの
主な増加要因

- 漁業協同組合との協働による中間魚育成
- 養殖技術の向上による養殖効率の向上



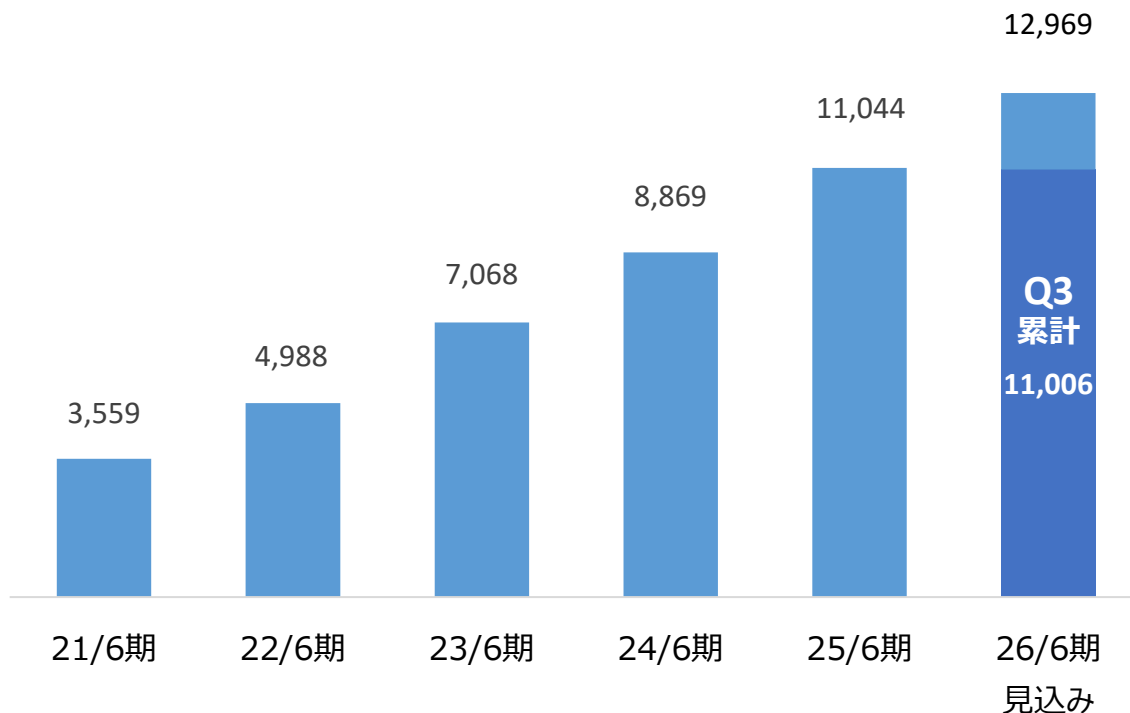
しもあつか
○ 下安家 さけ・ます ふ化場

震災や豪雨災害後に、国、岩手県、野田村等の支援で復旧、最近は従来のさけ・ます放流事業に加え、当社グループとの協働によるサーモトラウト養殖にも進出。昨年末に種苗85トの種苗生産完了。

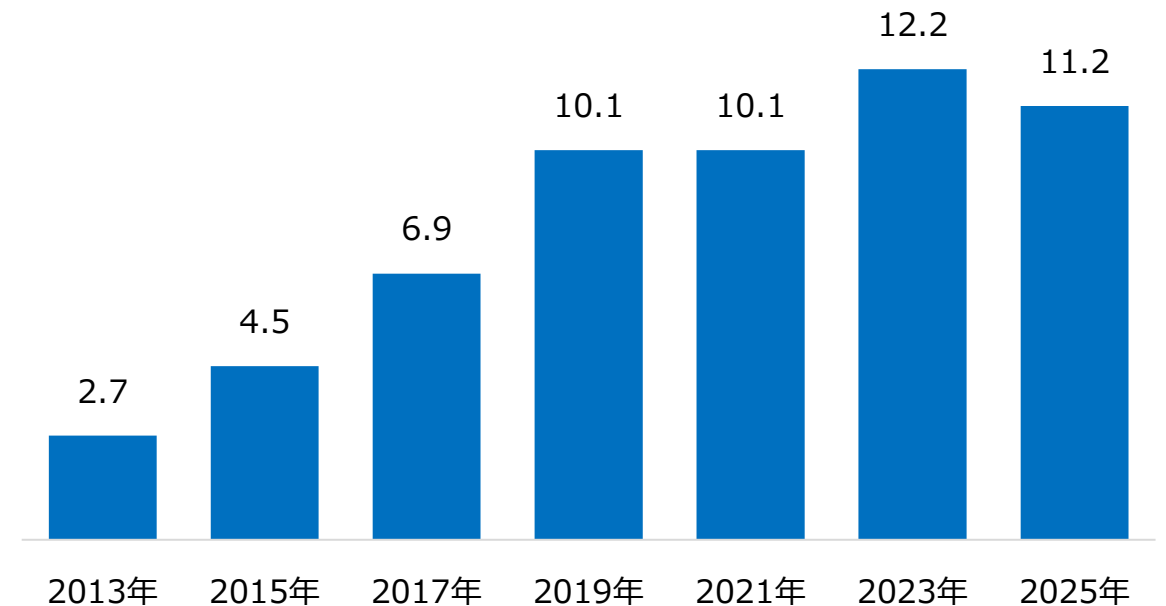
成長のためのKPI (2) 海外卸売事業売上の拡大

もう一つの成長ドライバーである海外卸売事業は、アジアにおける日本食市場の拡大を背景に拡大してきた。当Q3時点の売上高は110.0億円(前年同期比+23.7億円/+27.5%増 *為替換算影響含む)、計画進捗84.9%と計画を上回る進捗で順調に推移。

海外卸売事業売上高 (百万円)



アジアにおける日本食レストランの概数 (万店)



(出所) 農林水産省「海外における日本食レストラン数の調査結果 (令和7年)」

昨年11月公表の2025年概数は、前回比 約1割減となっている。これは最大市場の中国(本土)が経済停滞などにより-19%となった影響が大きく、**当社進出国の伸長率は+4%(総店数は約2万店)と継続拡大。**

連結業績サマリー①

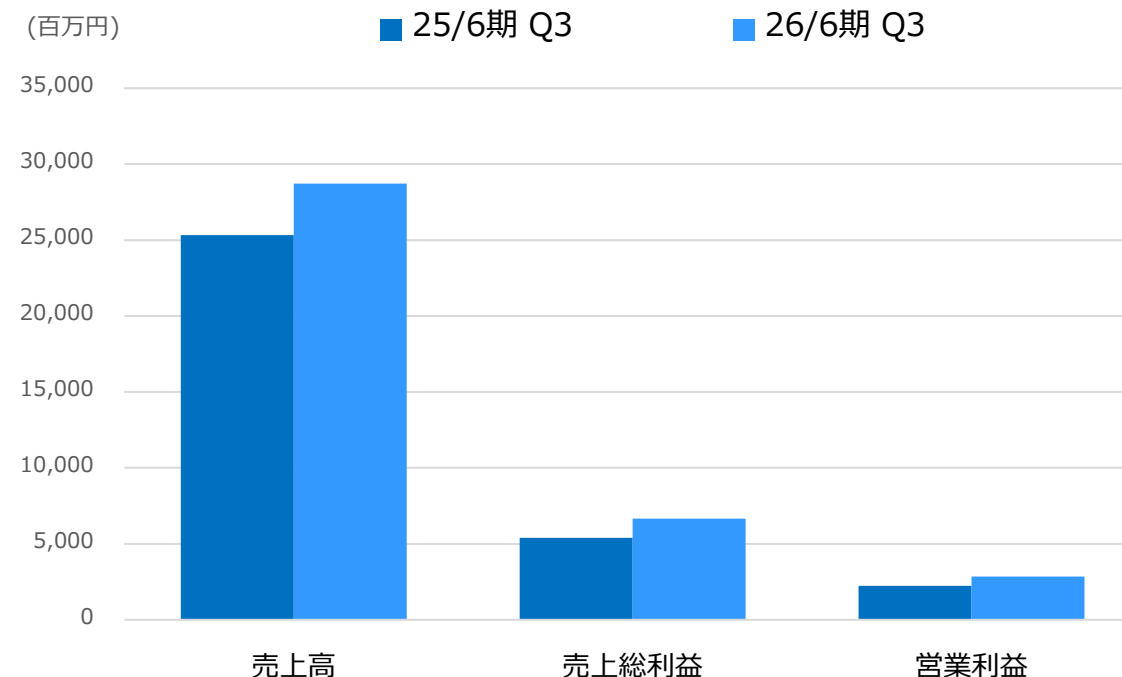
売上高は前年同期比+33.9億円、営業利益は売上増加に伴う利益増で人件費増/在庫増加に伴う保管料増加等を吸収し同+6.1億円と増収増益。経常利益は同+9.7億円(内、外貨建債権の為替差損益が同+4.9億円*)。

*当期は差益3.6億円、前期は差損1.2億円で差異+4.9億円。

(単位：百万円)

	25/6期Q3 累計実績	26/6期Q3 累計実績	増減額	増減率 (%)
売上高	25,329	28,722	+3,393	+13.4%
売上総利益	5,395	6,656	+1,261	+23.4%
営業利益	2,233	2,851	+618	+27.7%
経常利益	2,125	3,101	+975	+45.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,588	2,111	+523	+32.9%

業績推移

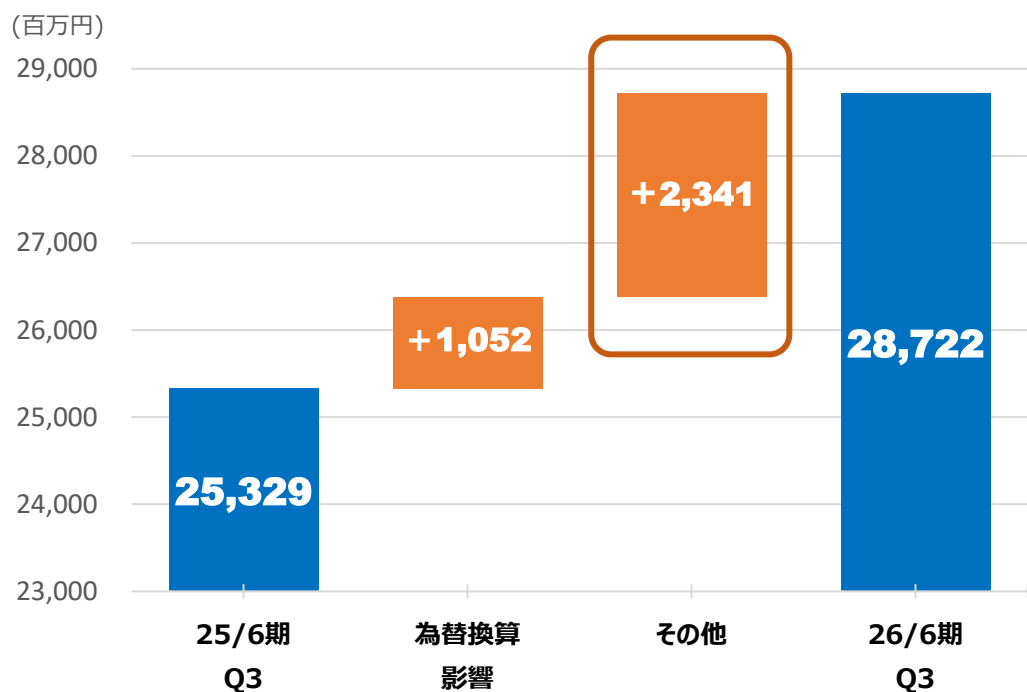


連結業績サマリー②

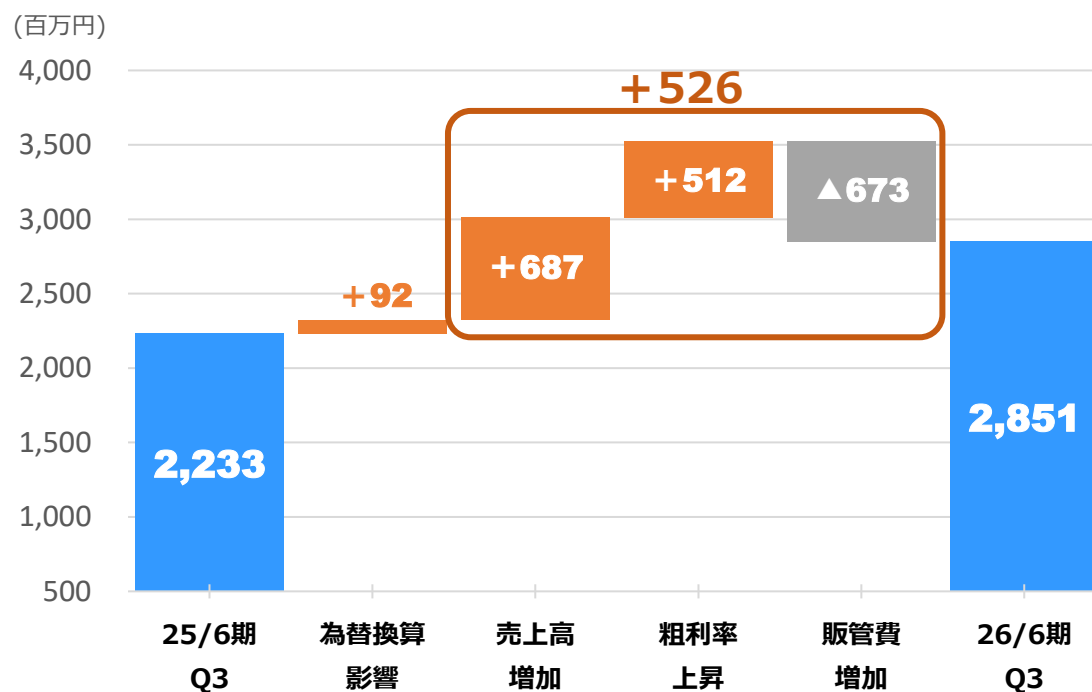
売上高は、為替換算影響を除いて**+23.4億円**。

営業利益は、売上増による利益増、利益率の高い国内加工事業の構成比増による粗利率上昇により、人員増に伴う人件費増等の販管費増加要因をカバーし、為替換算影響を除いて**+5.2億円**。

連結売上高 増減要因



営業利益 増減要因



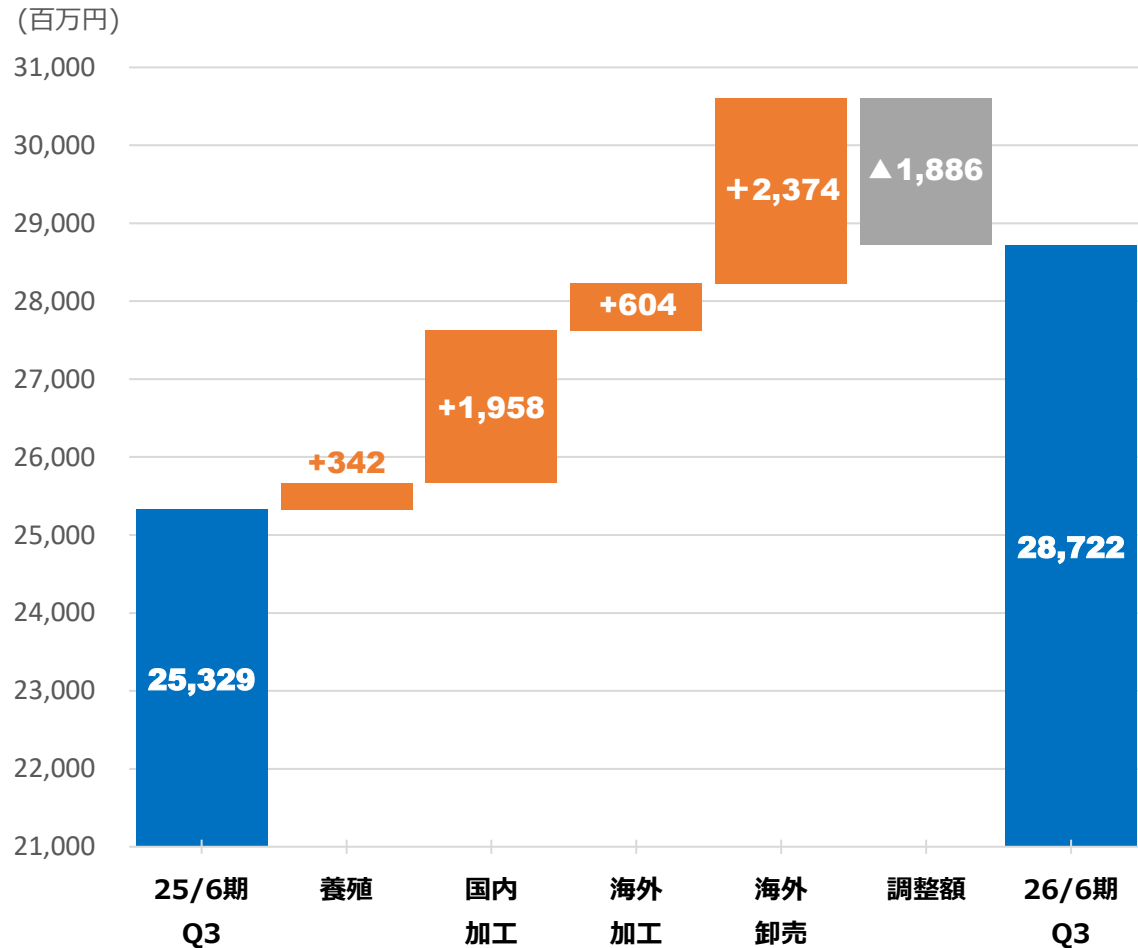
セグメント情報サマリー

(単位：百万円)

	25/6期 Q3累計	26/6期 Q3累計	前年同期比	前年同期比 増減率(%)	増減の内訳		
					為替差	実質	増減率(%)
売上高	25,329	28,722	+ 3,393	+ 13.4	+1,052	+ 2,341	+ 9.2
養殖	5,261	5,604	+ 342	+ 6.5	+450	△ 107	△ 2.0
国内加工	7,352	9,311	+ 1,958	+ 26.6	—	+ 1,958	+ 26.6
海外加工	10,496	11,100	+ 604	+ 5.8	+0	+ 604	+ 5.8
海外卸売	8,632	11,006	+ 2,374	+ 27.5	+602	+ 1,771	+ 20.5
調整額	△ 6,414	△ 8,301	△ 1,886	—	—	△ 1,886	—
セグメント利益	2,233	2,851	+ 618	+ 27.7	+92	+ 526	+ 23.6
養殖	742	539	△ 202	△ 27.3	+50	△ 253	△ 34.1
国内加工	953	1,955	+ 1,002	+ 105.1	—	+ 1,002	+ 105.1
海外加工	770	546	△ 223	△ 29.0	+1	△ 224	△ 29.2
海外卸売	453	726	+ 272	+ 60.0	+40	+ 231	+ 51.0
調整額	△ 687	△ 916	△ 229	—	—	△ 229	—

セグメント別売上高増減

セグメント別売上高増減



増減補足説明

養殖

前期比+342

- 国内養殖では加工用の冷凍販売数量減により売上減。
- 海外養殖では魚卵価格上昇、円安影響から売上増。

国内加工

前期比+1,958

- いくら・筋子製品の供給不足による販売価格相場が上昇する中、前年並の販売数量を確保できたことから大幅な売上増。

海外加工

前期比+604

- 国内向け販売については前年並に留まったものの、台湾、タイなど海外卸売事業向け販売が増加し売上増。

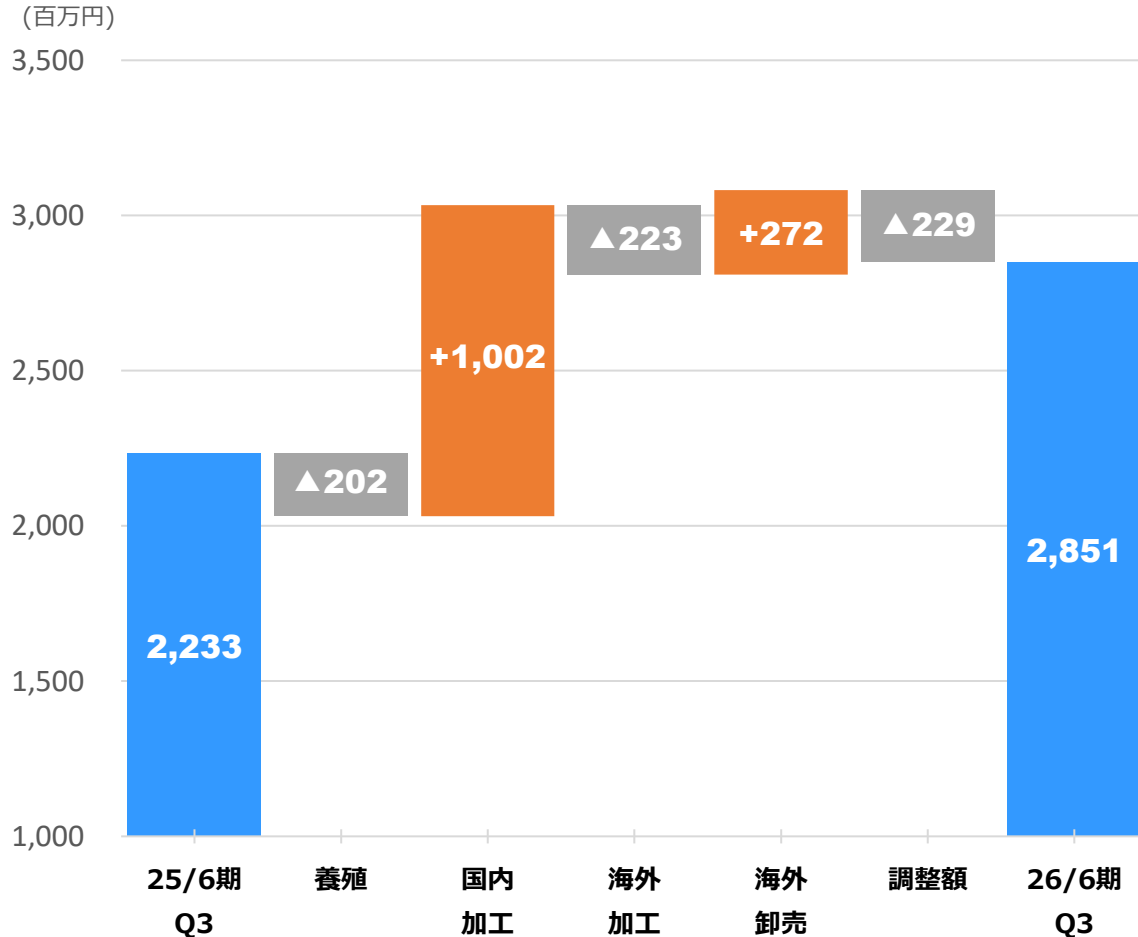
海外卸売

前期比+2,374

- 進出エリアの日本食レストラン店数増が継続するなど市場環境は良好。従来の売上増加傾向が継続。

セグメント別営業利益増減

セグメント別営業利益増減



増減補足説明

養殖

前期比△202

- 国内養殖は単価上昇による粗利率好転があるが微減。
- 海外養殖はサーモン市況の低迷、生育不良等で減益。

国内加工

前期比+1,002

- 売上増に加え、販売価格上昇に伴う粗利率好転による粗利増加。

海外加工

前期比△223

- 売上は増加したものの、円安による原価率上昇、価格競争とは距離を置いたものの粗利率は悪化し利益減。

海外卸売

前期比+272

- 売上増の影響に加え、タイ子会社の利益改善等により利益増加。

調整額

前期比△229

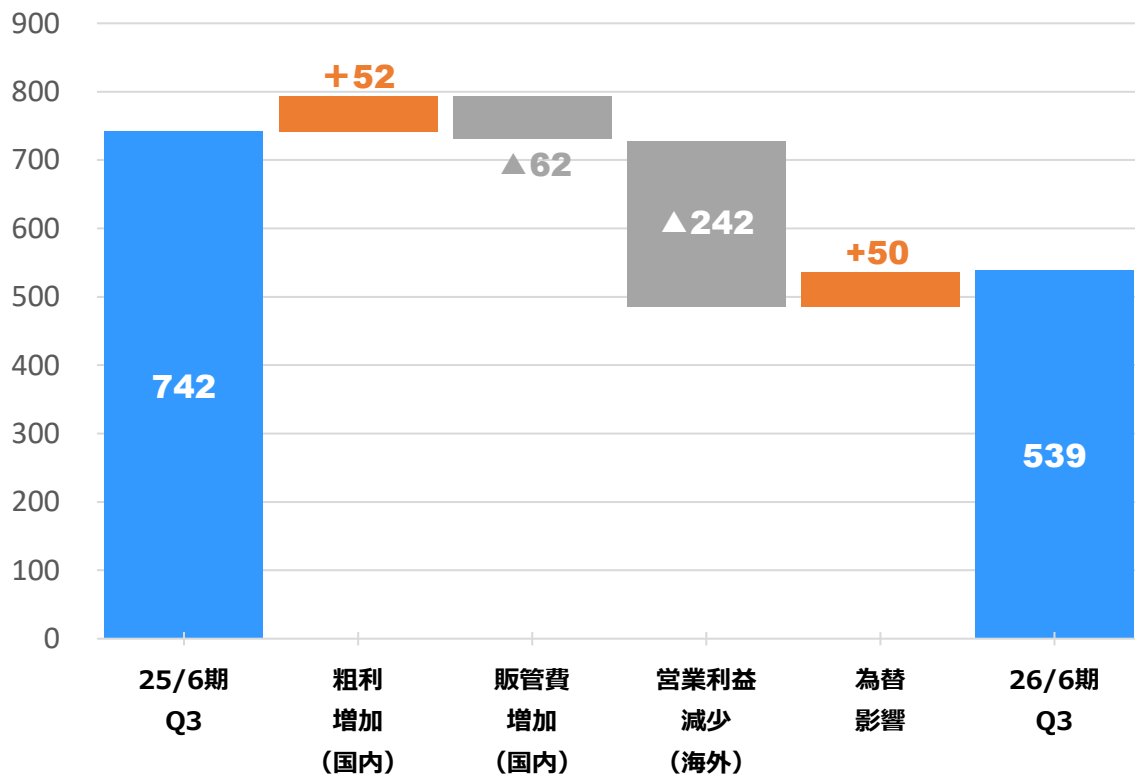
- 連結上の在庫未実現損益で△97、全社共通の人件費増（主に組織再編による所属変更の影響）等で△132。

要因別セグメント利益増減（養殖事業）

国内養殖事業は、規模拡大に伴うコストメリット、販売単価増はあるが、保管費等の販管費増でほぼ前年並。海外養殖事業は、魚卵販売は数量・価格とも伸長したが、海面養殖場での生育不良、サーモン市況が悪かったこと等の理由から原価率が悪化し、減益。

セグメント利益増減

(百万円)



増減補足説明

粗利増加（国内）による影響

前期比+52

- 販売単価の上昇と規模拡大によるコストメリットにより製造原価は低下したものの、加工用原料としての販売額が減少したため微増。

販管費増加（国内）による影響

前期比△62

- 事業規模拡大に伴う増加(保管料、販売手数料、管理費等)。

営業利益減少（海外）による影響

前期比△242

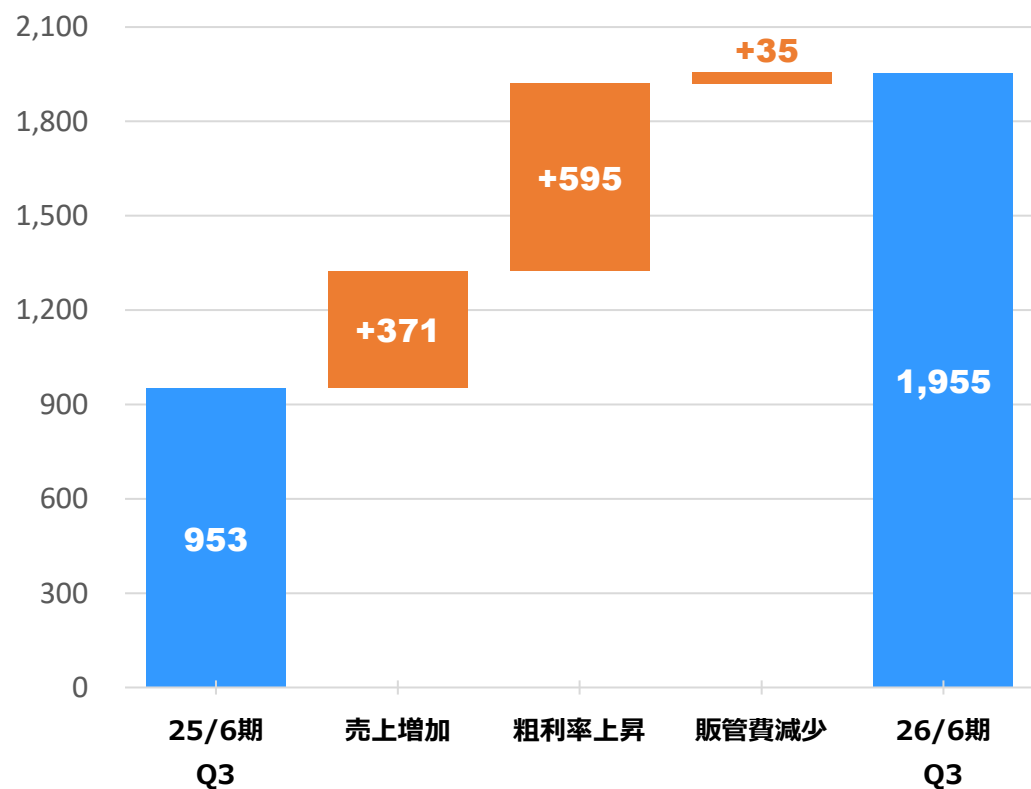
- 海面養殖場での生育不良による水揚量の伸び悩み、サーモン市況の低迷等の理由から原価率が上昇し利益減。

要因別セグメント利益増減（国内加工事業）

北海道の秋鮭不漁等の影響による国内原料不足により、販売価格相場上昇、一定の在庫を保有する当社製品の売上は順調に推移。契約更新による単価見直しも順調に推進したこともあり粗利率が好転し、セグメント利益増。

セグメント利益増減

(百万円)



増減補足説明

売上高増加による影響

前期比+371

- 国内原料不足により販売価格相場が上昇、契約単価の見直しも順次進み、他社との比較で一定の在庫を確保していた当社のいくらの販売が伸びて売上増加。

粗利率上昇による影響

前期比+595

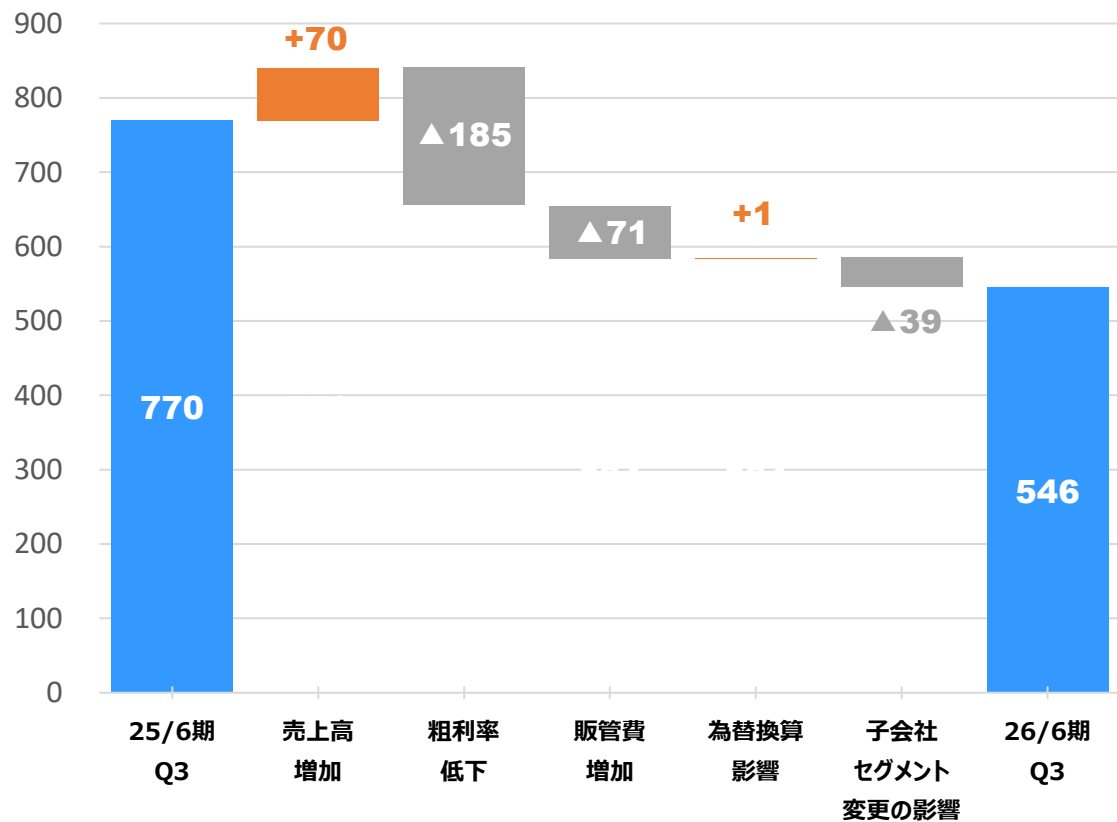
- 販売価格上昇に伴う粗利率好転に加え、前期に仕入れた(相対的に)単価の低い在庫消化も効き粗利率が好転し、大幅な増益。

要因別セグメント利益増減（海外加工事業）

売上は増加したものの、円安による原価率上昇、さらに販売価格の値上げも価格転嫁が追い付かず粗利率は低下し、事業拡大に伴う人件費増加等もありセグメント利益減。

セグメント利益増減

(百万円)



増減補足説明

売上高増加による影響

前期比+70

- 国内向け販売については前年並に留まったものの、台湾、タイなど海外卸売事業向け販売が増加。

粗利率低下による影響

前期比△185

- 円安による原料価格上昇、販売価格の値上げも価格転嫁が追い付かず粗利率低下。

販管費増加による影響

前期比△71

- 事業拡大に伴う従業員数の増加による人件費増加等の影響

セグメント変更の影響

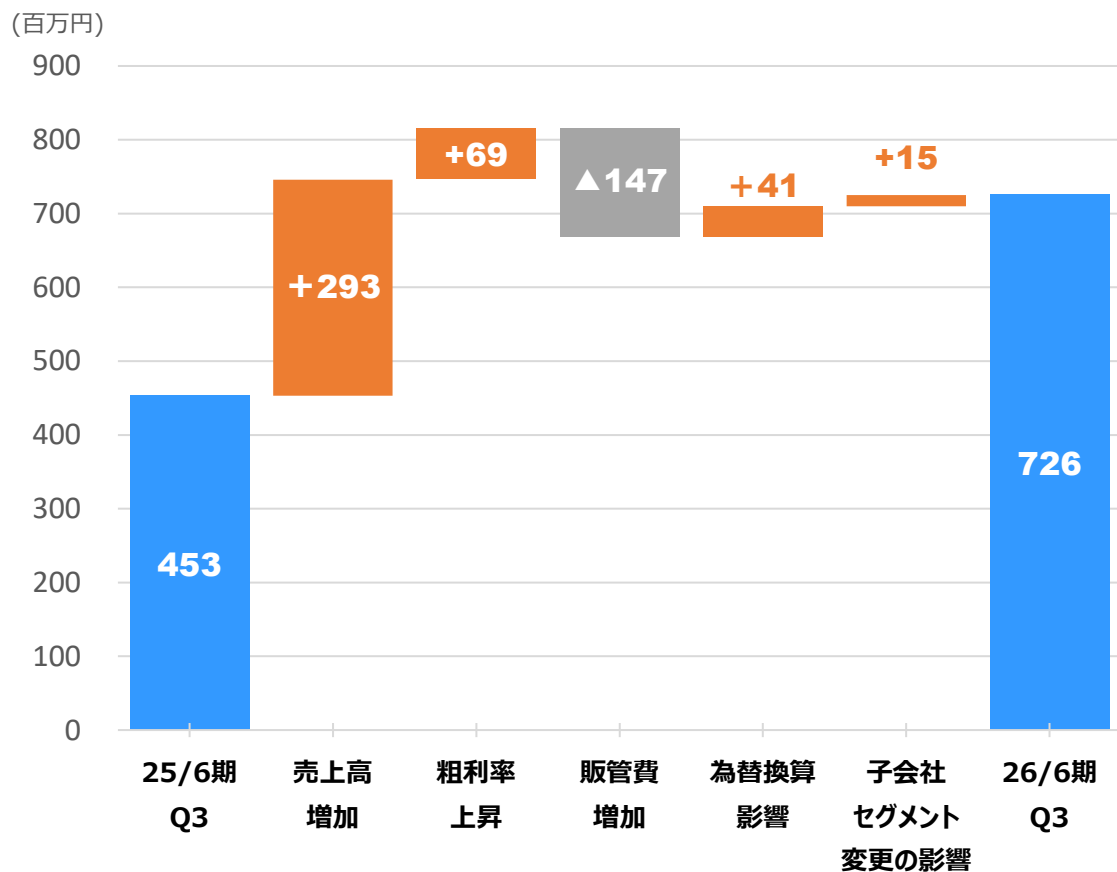
前期比△39

- ベトナム子会社の海外卸売事業開始に伴うセグメント変更の影響(年間では約△50)を想定

要因別セグメント利益増減（海外卸売事業）

市場拡大を背景にこれまでの増収トレンドが継続、売上高増が販管費増を吸収し、セグメント利益増。

セグメント利益増減



増減補足説明

売上高増加による影響

前期比+293

- アジアの日本食マーケットの拡大傾向は継続しており、これを背景に当事業の売上高も増加。利益額を押し上げる要因となっている。

粗利率上昇による影響

前期比+69

- タイ子会社の事業拡大に伴う利益改善により粗利率は上昇。

販管費増加による影響

前期比△147

- 事業拡大による費用増加。販管費投資が一巡したことで、当期の販管費率は正常化。

連結貸借対照表 増減サマリー

(単位：百万円)

資産	2025年6月末	2026年3月末	増減
流動資産	30,327	50,373	+20,046
現金及び預金	4,416	7,943	+3,527
売上債権等	4,599	4,306	△ 293
棚卸資産	17,378	32,737	+15,359
その他	3,934	5,387	+1,453
固定資産	10,944	12,652	+1,708
有形固定資産	10,104	11,729	+1,625
無形固定資産	259	335	+76
投資その他の資産	580	586	+6
資産合計	41,271	63,025	+21,754

負債	2025年6月末	2026年3月末	増減
流動負債	20,036	38,370	+18,334
仕入債務	1,823	1,165	△ 658
借入金	12,651	31,272	+18,621
その他	5,562	5,933	+371
固定負債	5,191	5,615	+424
借入金	3,388	3,661	+273
その他	1,803	1,953	+150
負債合計	25,228	43,985	+18,757
純資産			
純資産合計	16,043	19,040	+2,997

- 棚卸資産の増加：原料の豊漁年に対応した国内加工事業における魚卵仕入と養殖事業の仕掛（養殖中のサーモントラウト）在庫の増加など
- 設備投資の進捗：主に養殖事業に関する設備投資
- 借入金の増加：国内加工事業向けの原料仕入のために借入増加（運転資金目的）

Ⅱ. 「中期経営目標2030」の進捗状況



■ 国内養殖キャパシティの拡大に向けた取組

- ① 中間養殖場の建設状況
- ② 外部リソース活用の取り組み加速化
- ③ 新バージ船の建造状況

■ 海外卸売事業の拡大に向けた取組

- ・ オランダ子会社の新設、既存拠点の基盤整備

■ その他トピックス

- ・ ラトビアでの養殖事業のアップデート

国内養殖量の拡大に向けた取組 ① 中間養殖場の建設状況

中間養殖場の建設は計画通り進捗。泊川中間養殖場は27/6期に、第2今別中間養殖場は28/6期に順次水揚げ寄与予定。

青森県および北海道道南エリアを中心に、中間養殖場新設に向け、自治体との協議は継続して進行中。

現在進行中の中間養殖場新設状況

	泊川中間養殖場 (秋田県八峰町)	第2今別中間養殖場 (青森県今別町)
想定成魚 生産量	約1,000トﾝ	約1,000トﾝ
進捗状況	<p>建設工事は計画通り</p>  <p>(2026年 3月撮影)</p>	<p>井水第一号 掘削中</p>  <p>(2025年 5月撮影)</p>
水揚げ寄与 見込	2027年6月期 (変更なし)	2028年6月期 (変更なし)

左記のほか、青森県および北海道道南エリアを中心に中間養殖場新設を想定し、複数箇所候補地選定を進行中(自治体協議、地質調査、ボーリング調査等)。



国内養殖量の拡大に向けた取組 ②外部リソース活用の取り組み加速化

順調にスタートした岩手県 ^{しもあつか}下安家さけ・ます孵化場(2025年末種苗生産85トン<当初想定50トン>に加え、北海道八雲町・ひやま漁業協同組合との共同会社設立、岩手県 ^{あけどかわ}田野畑村 明戸川さけ・ます孵化場での種苗生産を開始するなど、外部リソースを活用した取り組みを拡大。

北海道八雲町・ひやま漁業協同組合との共同出資会社

- 当社子会社である日本サーモンファーム(株)との三者での共同出資会社を本年5月に設立(予定)
- 養殖・加工・販売等を行う(今期種苗生産は50トン規模、うち当社海面養殖に使用する種苗は1/4程度)



岩手県 明戸川さけ・ます孵化場

- 岩手県庁、田野畑村役場、田野畑村漁協と連携し、明戸さけます孵化場を活用し、種苗生産を開始(今期種苗生産は50トン規模)



<発眼卵>



<種苗>



国内養殖量の拡大に向けた取組 ③新バージ船の建造状況

給餌効率の安定化に向け、建造中の新バージ船は予定どおり進行。

(予定) 2026年夏に完成 → 2026年秋に日本着 → 2026年末から稼働
三厩海域向けに大型化し、将来の生産量拡大に備える。

<参考> 導入済・新規バージ船の比較

	導入済バージ船	新規バージ船
導入地区	今別海域	三厩海域
餌積載量	240トﾝ	300トﾝ
水揚寄与見込	稼働中	2027年6月期(予定)
新規バージ船の主な強化点		<ul style="list-style-type: none"> 塩害対策・電子設備の気密性を強化 餌保管サイロ数増設により供給可能な生簀チャンネル数を拡大 将来の海面養殖場の拡張を見据え、餌積載量を240トﾝ→300トﾝに大型化

ベトナムで建造中のバージ船



三厩海域(青森県)



海外卸売事業の拡大に向けた取組

海外卸売事業は、本年4月に欧州初の拠点をオランダに設立し、現在7地域で展開している。

(シンガポール、マレーシア、台湾、タイ、ベトナム、香港、オランダ)

事業拡大に向け、既存拠点においてもオフィス移転、生産施設新設等の基盤整備を着実に推進中。



海外卸売事業の主なトピック		
ベトナム	'25/04	販売事業本格始動
香港	'25/11	新設
	'26/02	新オフィス移転
タイ	'26/02	オフィス移転
台湾	'26/03	生産施設稼働
オランダ	'26/04	新設

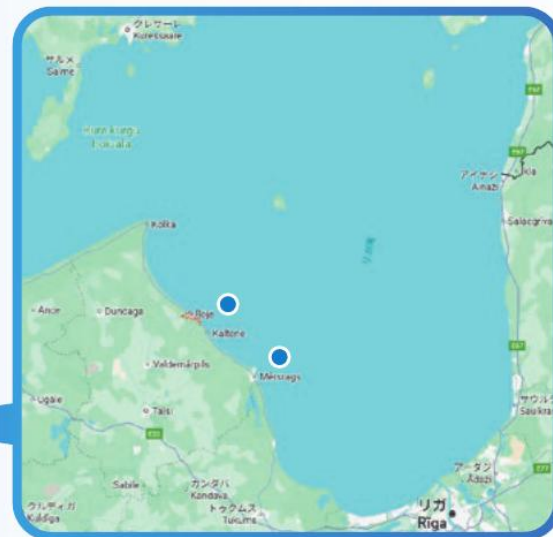
その他トピックス：海外養殖量の拡大に向けた取組

昨年6月に、ラトビア共和国でサーモントラウトの養殖事業を行うことを目的とした株式取得(持分法適用会社)を公表しました。これまでサーモントラウト養殖を実施したことのない同国で養殖事業を確立するには10～15年程度の長い年月と大きな設備投資を必要とするため、進展がありましたら適宜報告していきます。

ラトビア持分法適用会社 RBA の概要

名称	Riga Bay Aquaculture, AS
所在地	ラトビア共和国 リガ
事業内容	サーモントラウトの養殖事業
当社持分比率	デンマーク子会社 Musholm が 51%保有

デンマークとラトビアの位置関係



リーガ湾における海面養殖場予定地

今後の予定*

2027年 (FY2028)	試験養殖開始(海面養殖 1つの生け簀)
2028年～ (FY2029～)	海面養殖場を徐々に拡大 加工工場を建設(建設前は外部に一次加工を委託) 冷凍設備を建設 陸上養殖場を建設 孵化場を建設
2036-2041年 (FY2037-2042)	10,000トン規模の養殖バリューチェーンを確立

*来年2027年からの試験養殖開始に向け、ラトビア当局と協議中で以後の予定は現時点の暫定目標です。
なお、昨年2月に公表した「中期経営目標2030」に、本計画は含まれておりません。

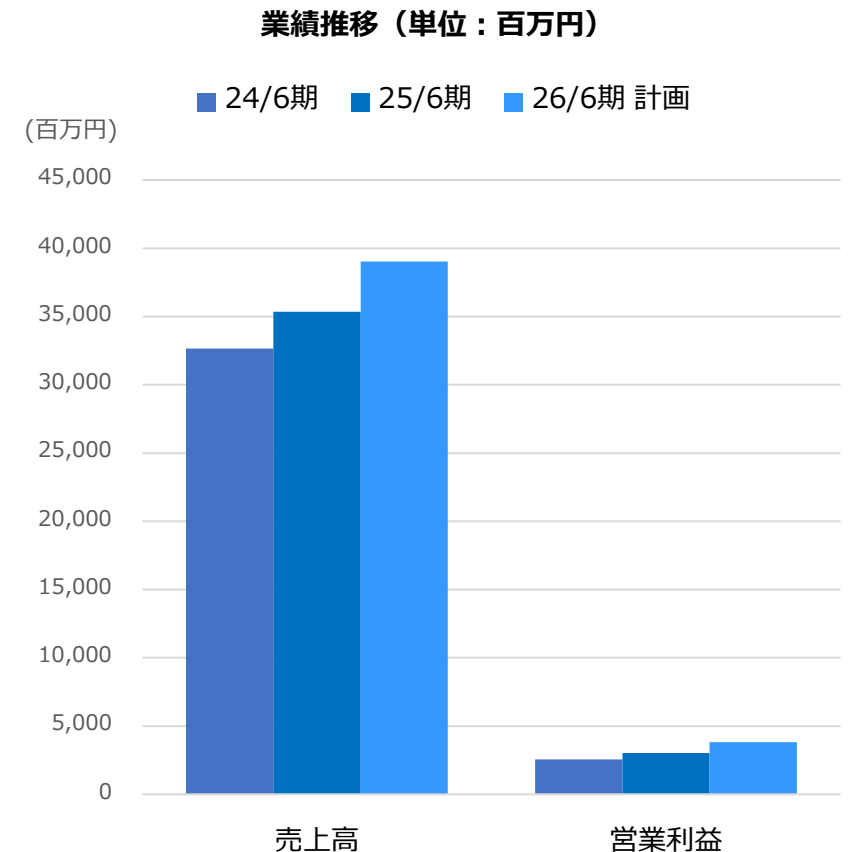
Ⅲ . 2026年6月期 通期計画



連結業績計画サマリー

連結売上高は前期比37億円増の390億円を計画。主な要因は、国内養殖量増による養殖事業売上の増、アジアでの市場規模拡大を背景にした海外卸売事業売上及び海外加工事業売上の増。連結営業利益は前期比8億円増の38億円を計画。上記売上増に伴う増益。

(単位：百万円)	24/6期 実績	25/6期 実績	26/6期 計画	増減額	増減率 (%)
売上高	32,665	35,345	39,035	+3,689	+10.4
営業利益	2,548	3,021	3,813	+791	+26.2
経常利益	2,932	2,815	3,594	+779	+27.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,968	2,020	2,577	+556	+27.5
1株当たり当期 純利益 (円)	42.03	41.35	52.37	+11.02	+26.6



※ 25/6期の経常利益には、為替差損222百万円（外貨建債権に関する為替差損など）が含まれています。
 ※ 2025年1月1日付で1：2の株式分割を、2025年7月1日付で1：3の株式分割を行っています。上記の1株当たり当期純利益は24/6期の期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合の金額を記載しています。

セグメント別

(単位：百万円)	2025/6期 実績 (a)	2026/6期 計画 (b)	(b-a)
売上高	35,345	39,035	+3,689
養殖	9,260	9,941	+681
国内加工	9,398	9,742	+344
海外加工	14,087	16,415	+2,328
海外卸売	11,044	12,969	+1,925
調整額	△8,445	△ 10,034	△1,589
セグメント利益	3,021	3,813	+791
養殖	1,238	1,273	+34
国内加工	1,177	1,510	+332
海外加工	1,040	1,256	+216
海外卸売	603	762	+158
調整額	△1,039	△ 989	+49

増減説明（セグメント利益）

養殖

対実績+34

- 当期比で国内養殖量は8百トン、海外養殖量は6百トンの増産見込。
- 国内養殖では、戦略的に海外販売を増やしていくために期末在庫が大きく増えて、販売数量は水揚げ量ほどには増えない見込み。
- 欧州市場の影響を強く受ける海外養殖の販売価格は参考指標に基づき設定。現状のサーモン価格の状況を反映して当期実績より低め。

国内加工

対実績+332

- 25.6期は価格転嫁が遅れ、近年では最も低い利益率だった。
- 今年の漁獲高は低水準となる見通し。魚卵原料不足から、利益率は平年並みにまで回復すると見込む。

海外加工

対実績+216

- サーモンハラス原料の調達難は継続する前提としている。
- 青森サーモンの加工販売や新アイテムの拡大により国内向け売上が増加見込み。
- 海外卸売売上の伸びに伴い、同事業向けの販売も増加見込み。

海外卸売

対実績+158

- アジアの日本食マーケットの拡大傾向は継続すると想定。当事業もこれまでと同様のペースで成長を続けると見込む。

株主還元

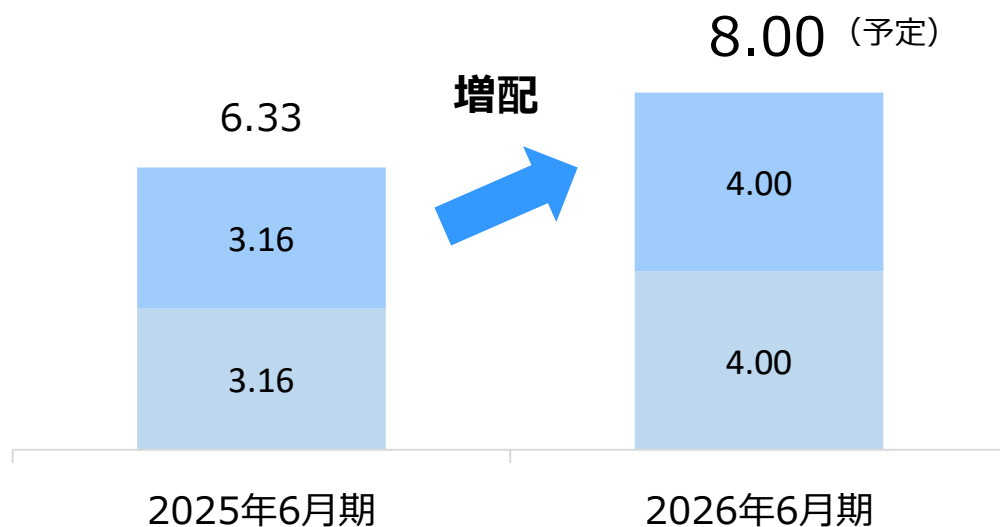
配当

配当方針

株主資本配当率2%以上を目途に
継続的な増配に努める

1株当たり配当金推移 (単位:円)

■ 第2四半期末 ■ 期末



※25年1月1日付で1:2の株式分割を、25年7月1日付で1:3の株式分割を行っています。上記の1株当たり配当金額は25.6期の期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合の金額を記載しています。

株主優待制度

目的

当社製品・事業の知名度向上
当社株式の投資魅力の向上

対象者

期末時点で1単元(100株)以上保有の株主様

優待品の内容

当社で養殖あるいは加工した食品

100~299株

おおむね3,000円相当



300~599株

おおむね5,500円相当



600株以上

おおむね8,000円相当



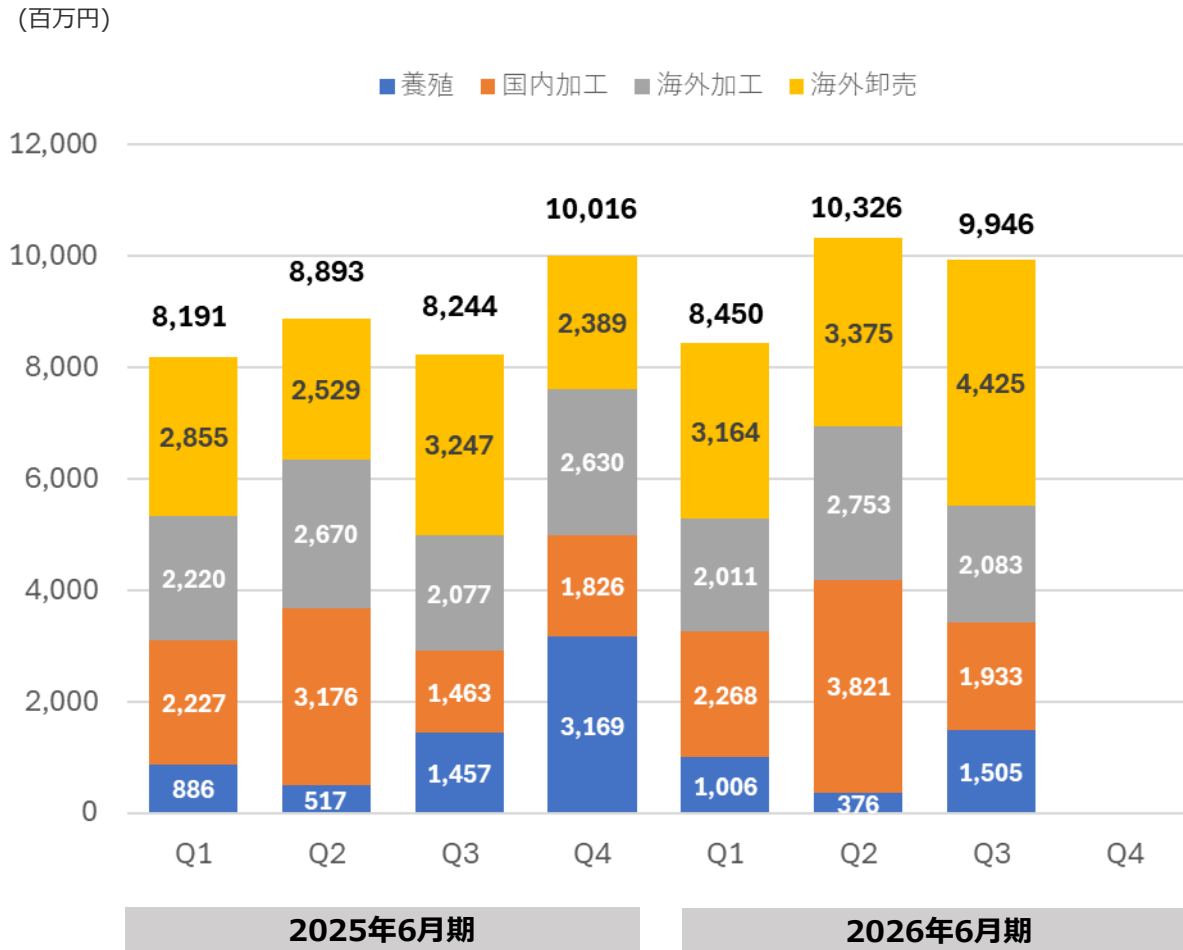
※上記の株式数は、2025年7月1日付の株式分割後の株式数を記載しています。優待品の金額表記は、商品価格改訂後の金額に基づいて記載しています。

IV. 参考資料



四半期ごとの季節変動について（売上高）

ロ セグメント別 四半期推移（外部顧客への売上高）



＜各セグメントの主な季節要因＞

○養殖事業

水揚げ時期に売上が集中する傾向があります。水揚げ時期は国内養殖が4～7月（主に第4四半期）、デンマークの養殖が10～12月（第3四半期・決算日差異あり）になります。

○国内加工事業

取扱っている製品（いくら、筋子、数の子）の性格上、年末商戦（第2四半期）に売上が集中、年始はその反動で売上が落ち込むという傾向があります。

○海外加工事業

特に大きな季節要因はありません。

○海外卸売事業

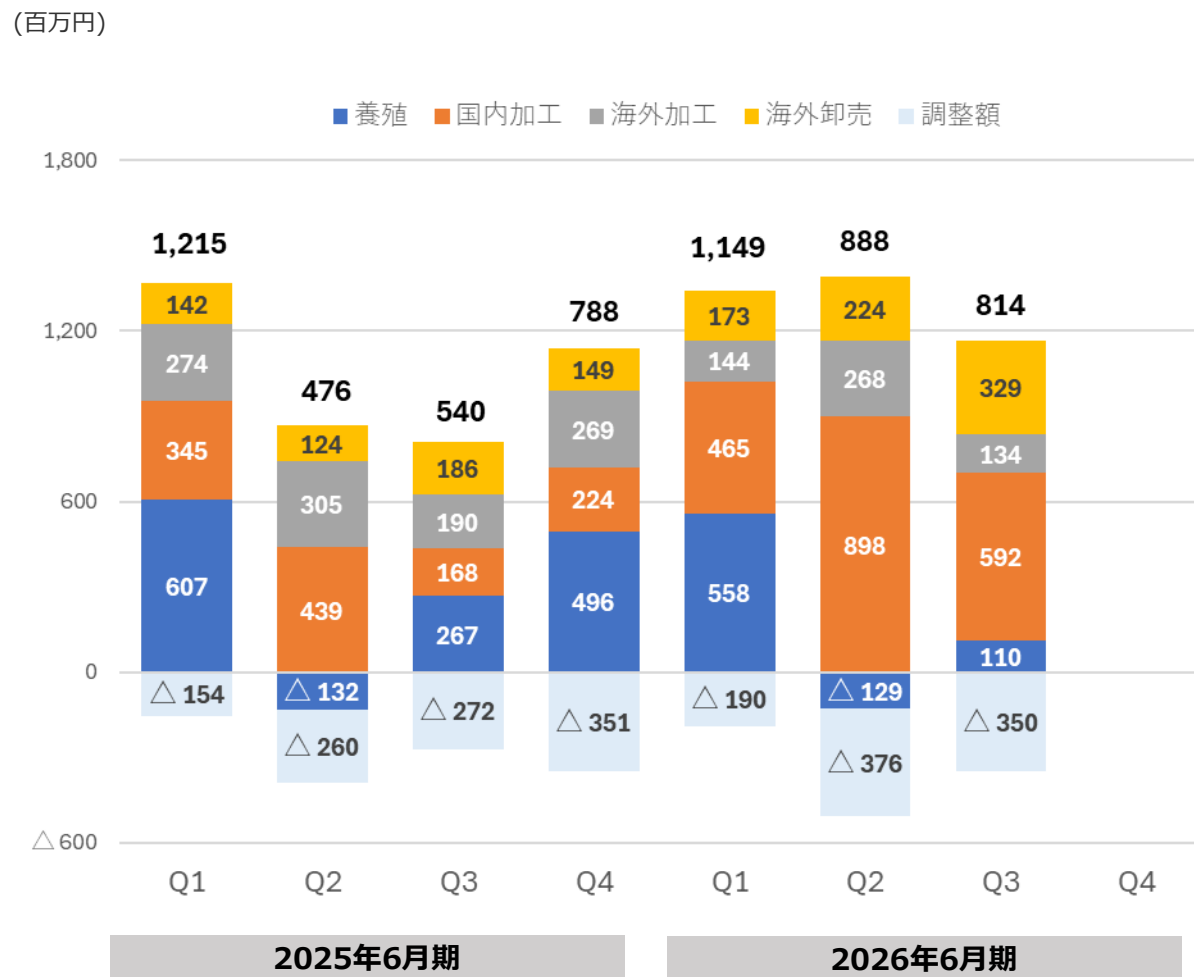
特に大きな季節要因はありません。

(注)

上記は例年における主な季節要因を説明したものです。実際の業績は他の様々な要因によって変動することをご承知おき下さい。

四半期ごとの季節変動について（セグメント利益）

ロ セグメント別 四半期推移（セグメント利益）



＜各セグメントの主な季節要因＞

○養殖事業

Q1

国内・海外ともに水揚げ時期ではありませんが、デンマーク子会社(IFRS適用)の年間販売利益の見込額がQ1に一括で計上されます。

Q2

国内・海外ともに水揚げ時期ではないため、販売利益は少なくなる傾向があります。

Q3

デンマーク子会社の水揚げ時期にあたります。デンマーク子会社の販売利益の見積差額（実績値との差）はこの時期に多く計上される傾向があります。

Q4

国内養殖の水揚げ時期にあたります。国内養殖の販売利益はこの時期に多く計上される傾向があります。

○国内加工事業/海外加工事業/海外卸売事業

前頁参照

○調整額

全社費用に加え、グループ内取引によって生じた棚卸資産未実現利益の控除を含みます。これはQ2に多く計上される傾向があります。

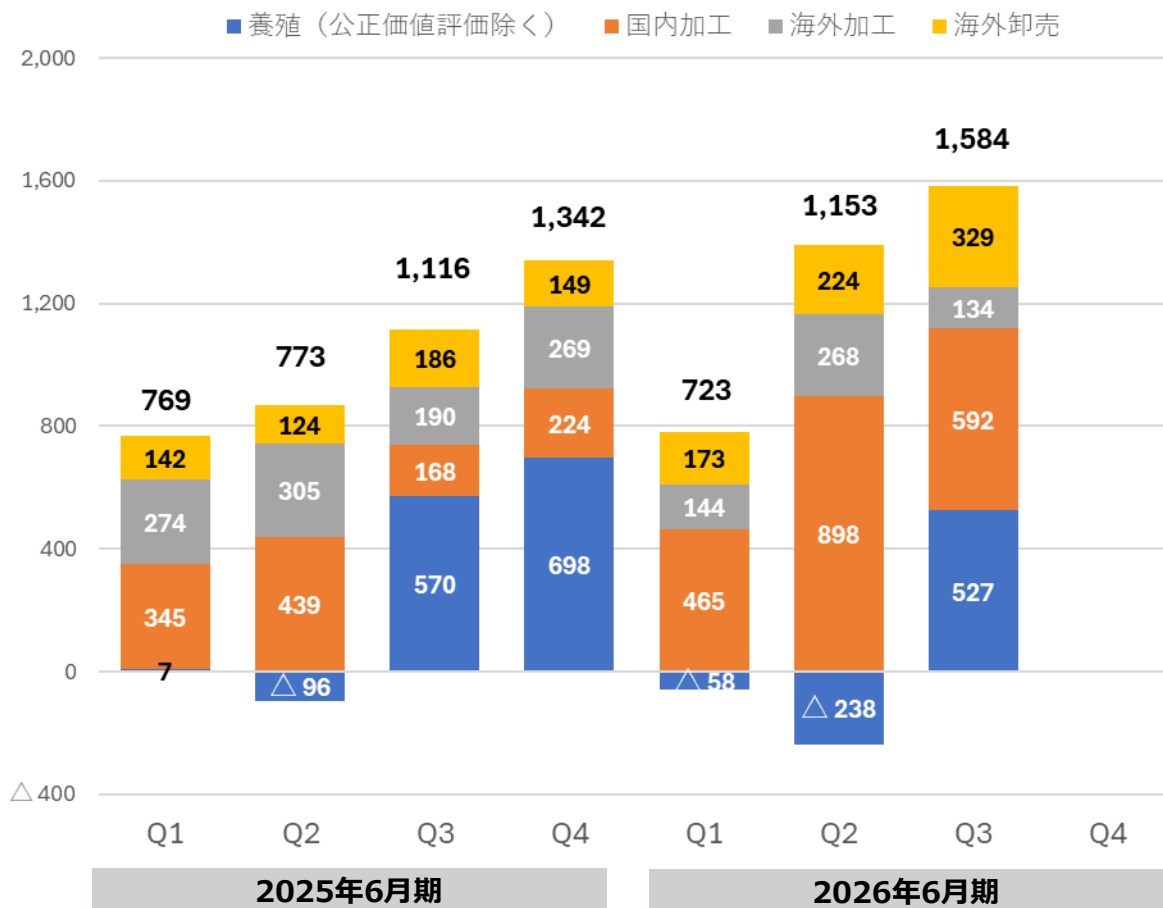
(注)

上記は例年における主な季節要因を説明したものです。実際の業績は他の様々な要因によって変動することをご承知おき下さい。

四半期ごとの季節変動について（IAS41号に基づく公正価値評価損益を除いた場合のイメージ）

□ セグメント別 四半期推移（調整額控除前セグメント利益）

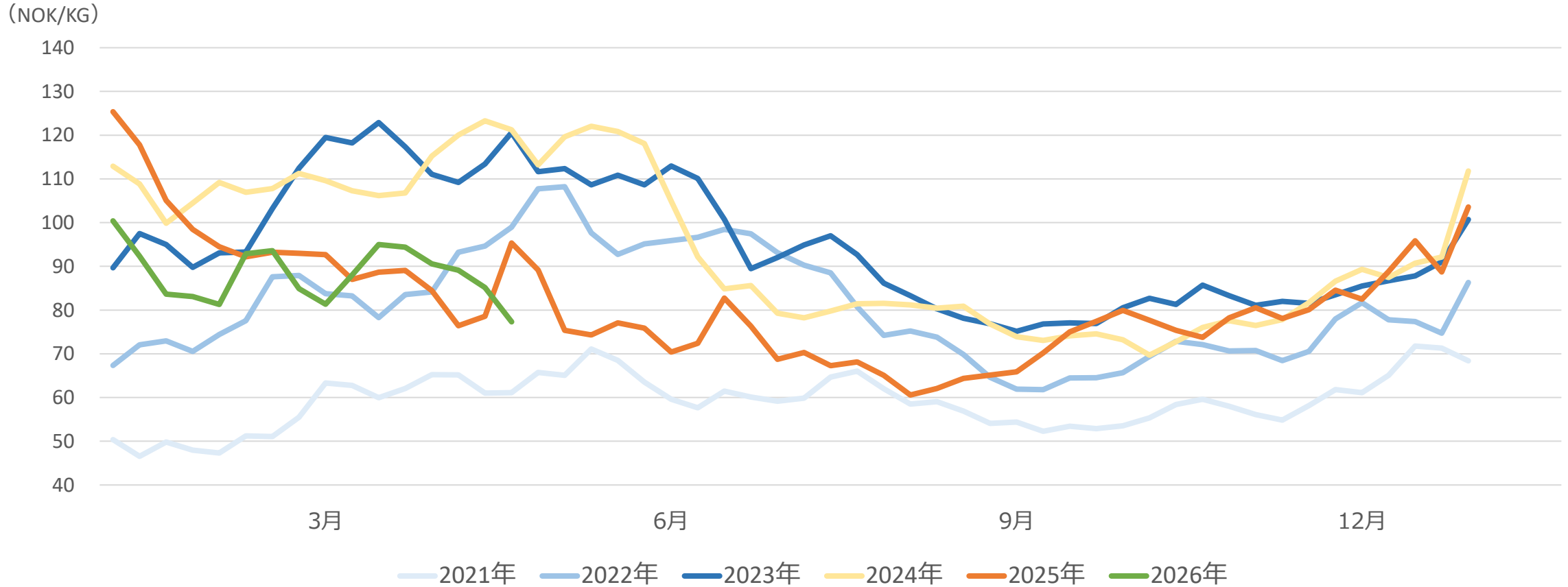
(百万円)



デンマーク子会社に適用されている「公正価値評価損益」の影響を除いた季節変動(日本の会計基準で処理した場合に近似する)は左記のとおりです。

(注)
セグメント利益の調整額（全社費用、棚卸資産に含まれる未実現利益の消去、など）を控除する前の数値です。

アトランティックサーモンのスポット価格 <SB(Statistics Norway)>



※ 上記グラフは、当社グループが養殖しているサーモントラウトとは異なる魚種であるアトランティックサーモンのスポット価格を表示しています。サーモントラウトにはこのような指標はないため、魚種は異なるものの、当社グループでは便宜的に当指標を予算策定や市場トレンドを測る際の参考指標として利用しています。なお、実際の取引価格は国内需給や輸送コストなど様々な要因に基づいて決定されます。あくまで当指標は一参考指標としてご覧いただく必要がある点にご留意ください。
 <出所：SB(Statistics Norway)の週次「輸出価格」。すべての輸出取引の平均のため、「厳密な“スポット（即時取引）だけ”よりは市場全体平均に近い特性。>

豊洲市場のいくら平均価格推移



出展) 東京都中央卸売市場・市場統計情報
※ 相場のトレンドを概観する目的で掲載しています。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、経済動向、他社との競争状況、商品相場動向など潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化などの様々な要因により、実際の業績は言及又は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

An aerial photograph of a vast aquaculture farm in the ocean. The water is a deep blue, and the sky is filled with heavy, dark clouds, with some light breaking through near the horizon. In the center of the image, several large, circular, metal cages are visible, arranged in a grid-like pattern. The text is overlaid in the center of the image in a white, sans-serif font.

海の恵みを絶やすことなく
世界中の人々に届け続ける。

株式会社 **オカムラ食品工業**



青森サーモン®